

発表者用マニュアル（v. 1.0）

水工学委員会河川部会

kasen-bukai@jsce.or.jp

ポイント

- 本資料は2022年度河川技術に関するシンポジウムの研究内容の発表方法を説明しています
- 発表者は、論文投稿と併せて、**論文の内容を説明するための資料の作成**、**シンポジウム特設サイト上でのディスカッション**、**研究内容およびディスカッション結果の発表(Zoom)**をお願いします。
- 本資料は予告なく更新する場合がございます。あらかじめご了承ください。

研究内容発表 概要

- 発表者は、論文の内容を事前に特設サイトにアップロードし、ディスカッションを行ってください。
- ディスカッション期間は6/6(月)～6/15(水)です。シンポジウム2日目（6/17(金)）は特設サイト上でのディスカッション結果を含め、論文の内容をzoomで発表していただきます。ご準備をお願いします。
- 発表資料は**PDFファイルで32MB以下**であればページ数等に制限はございません。例えば、一般的な口頭発表スライド（10ページ程度など）や過去の河川シンポで使用したような大判1枚ものなどでも可能です。
- シンポジウム特設サイトは、後日、閲覧制限なしでの公開になります。説明資料およびディスカッションについては、公開にあたって支障のないものにしていただくようお願い申し上げます。

1. 発表資料と提出締め切り

論文、発表資料はともにPDF(各32MB以下)で作成ください。音声ファイルや動画は不可です※1。PDFにセキュリティパスワードを設定しないでください。締め切りは以下の通りです。

発表資料：～6/9

※1 希望者は動画リンク URLを特設サイト上に埋め込むことも可能です。ご希望の発表者をご相談ください。発表資料のアップロードについては、以下のシンポジウム特設サイトに移動していただき、行ってください。

<https://www.river-jsce.jp/2022symposium/>

土木学会HPからの参加申し込み後、IDとパスワードが発行されてから資料のアップロードが可能となります。資料のアップロード方法は特設サイト内のマニュアルをご確認ください。

https://www.river-jsce.jp/2022symposium/manual/how_to_post/

2. Zoomによる意見交換

Zoomにて、「研究内容およびディスカッション結果の発表」を行っていただきます。およそ3名の発表者ごとにブレイクアウトルーム※2を設け、そこに参加者が自由に入退室し、直接議論いただくことを想定しています。各Roomの司会者（河川部会委員）の進行に従い、発表を行ってください。

※2 小部屋のようなものです。3人のポスターセッション発表者と参加者のためのオンライン会議の場が用意されるとお考え下さい。

3. 特設サイト上でのディスカッション

6月6日(月) 特設サイト上での発表資料の公開開始

6月6日(月)-15日(水) 特設サイト上でのディスカッション※4

コメント入力フォームを用いてディスカッションを行ってください。

※4 質疑の活発化のため、積極的に質問、回答の入力をお願いします。

4. 論文内容およびディスカッション結果の発表

6月17日(金) zoomによる発表 (zoomのURLはシンポジウム特設サイト上でお知らせします。)

5. 河川技術に関するシンポジウム優秀発表者賞

Room毎に1件、優秀発表賞を授与します。

選考は、優秀発表者賞(ポスター発表)の審査要領内規に従い、特設サイト上でのディスカッション～17日の論文内容およびディスカッション結果の発表をもとに評価します。

6. 特設サイト上での発表資料イメージ

これはデモ画面によるイメージです。
実際のものとは多少異なりますのでご注意ください。

The screenshot shows a web page for the 2022 Symposium on River Engineering. The main content area features a large box with the text "発表資料 (画像、PDF等)" (Presentation Materials (Images, PDFs, etc.)). A callout box points to this area with the text "画像やPDF等を用いてポスター(記事)を作成" (Create a poster (article) using images or PDFs, etc.). Below this is a comment section with two comments and a "コメントを残す" (Leave a comment) form. A callout box points to the comment section with the text "コメントで議論が可能" (Discussion is possible in comments). On the right sidebar, there are two speech bubble callouts, both containing the text "広告募集中" (Recruiting advertisements).

ISCE 土木学会 水工学委員会 河川部会 2022年度 河川技術に関するシンポジウム The symposium about river engineering, 2022

プログラム 論文集ダウンロード ディスカッション マニュアル お問い合わせ

●●川の特性に関する考察

TOP / カテゴリ-1 / ●●川の特性に関する考察

Facebook Twitter Hatena

◎ 2022年5月12日 ■ カテゴリ-1

ログアウト

サイト内検索

検索

カテゴリ一覧

カテゴリ-1

広告

広告募集中

広告募集中

●●川 タグA タグB

コメント (2)

1. 佐藤 沙智子 より:
2022年5月12日 16:46 (編集)
コメントで議論ができます。

返信

1. 高橋 武 より:
2022年5月12日 16:49 (編集)
コメントに返信もできます。

返信

コメントを残す

高橋 武 としてログイン中。ログアウトしますか? * が付いている欄は必須項目です

コメント *

コメントを送信

コメントを送信

7.6/17のスケジュールと発表タイトル

6/17(木) 9:00 - 10:20 研究内容およびディスカッション結果の発表1 タイムテーブル

時刻	Room1		Room2		Room3		Room4		Room5	
	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題
9:00 9:20	R1-1 藤原 圭哉	河川管理検討プロセスの高度化・省力化システム(X-EVA)の提案	R2-1 岡田 将治	中筋川における河道内植生の維持管理コストを最小化する効率的な伐採サイクルの検討	R3-1 齋藤 正徳	気候変動による降雨量の増加を考慮した基本高水の設定手法の検討	R4-1 渡邊 武志	河川管理施設(水門・樋門)の新たな管理手法について	R5-1 椿 涼太	運河決壊による洪水流による鉄道被害
9:20 9:40	R1-2 篠崎 遼太	河川管理施設に着目した2時期のALB計測データによる河道管理検討	R2-2 和田 孝志	UAV写真測量による河道内樹木高の簡易計測と混合砂礫置き土流送予測への活用	R3-2 福岡 捷二	近年の洪水災害を踏まえた流域治水を考える	R4-2 小原 大輔	固有振動数に着目した樋門の性能評価手法に関する実験的研究	R5-2 中野 晋	逢初川上流部での地形改変と土石流発生との関連性
9:40 10:00	R1-3 兵藤 誠	河道の状態の分析・評価及び対策検討における3次元データの活用による効率化・高度化の提案	R2-3 葛西 大樹	札内川の河道攪乱に及ぼす置土の継続的な効果の検証	R3-3 原田 守啓	河道の限界-治水と環境が調和した持続可能な河道についての一考察	R4-3 大森 嘉郎	最大エントロピー法とSTIVを組み合わせた流量測定	R5-3 神谷 浩二	濃尾平野における渇水時の中小河川の地下水涵養特性
10:00 10:20	R1-4 周 月霞	3次元河道設計ツールを用いた治水・環境の一体的検討の試行~雲出川直轄区間を例として~	R2-4 田端 幸輔	礫粗粒成分が停止する水理条件下での礫床表層への砂・礫細粒分の充填~流出過程に関する研究	R3-4 中西 一宏	流域の貯留能力を踏まえた流域治水方策に関する研究	R4-4 田代 喬	鉛-210年代測定法を適用した揖斐川水系津屋川の堆積速度の推定	R5-4 高田 翔也	ダムの常用洪水吐き呑口周辺の流れおよび堆砂特性

※発表時刻は目安です

7.6/17のスケジュールと発表タイトル

6/17(木) 10:30 - 11:50 研究内容およびディスカッション結果の発表2 タイムテーブル

時刻	Room1		Room2		Room3		Room4		Room5	
	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題
10:30 10:50	R1-5 河野 誉仁	河川環境の経年変化を踏まえた急流中小河川における部分拡幅工法の考察	R2-5 北川 哲郎	環境DNA分析を用いた河川調査における地点間隔設定の最適化に向けた検討	R3-5 妹尾 泰史	河川上流部における超過洪水用分散型遊水地の提案と阿武隈川を対象とした試算	R4-5 佐藤 辰郎	2017年九州北部豪雨後の山地河道の地形および河床材料の変化	R5-5 大熊 広樹	堤防法面補強土材の配合設計と現地適用実験
10:50 11:10	R1-6 林田 寿文	バーチャルツアーと仮想空間を活用した河川改修時における河川景観評価手法の提案	R2-6 宮平 秀明	環境DNAを用いた中国地方一級水系におけるオオカナダモ繁殖要因の基礎的検討	R3-6 原田 守啓	複雑な氾濫形態をもつ谷底平野部における超過洪水時の氾濫現象	R4-6 乾 隆帝	環境DNA定量メタバーコーディングを用いた九州北部豪雨直後の筑後川の魚類相調査～回復過程のモニタリングに向けて～	R5-6 福島 雅紀	越水による河川堤防の壊れ方に関する考察
11:10 11:30	R1-7 吉武 央気	砂礫による摩耗とスレーキングによる岩盤侵食を考慮した平面2次元河床変動モデルの開発と実河川への適用性検証	R2-7 宮園 誠二	環境DNA定量メタバーコーディング法を用いた江の川土師ダム下流における魚類多様性の把握	R3-7 石渡 裕明	流域治水における土地利用規制等の施策評価に資するマクロ経済成長モデルの活用について	R4-7 小山 直紀	分散不均一性を考慮した多変量自己回帰モデルによる短時間予測水位の精度向上に関する研究	R5-7 田中 規夫	越水による侵食破壊メカニズムを考慮した新しい裏法面保護工法の検討
11:30 11:50	R1-8 佐藤 貴亮	非破壊探査と画像解析による露岩河川の簡易な砂礫層厚把握手法の検討	R2-8 篠原 隆佑	環境DNA分析の河川の魚類調査への適用に向けた最適な採水地点の検討	R3-8 福岡 龍	自治体の水防災まちづくりに関する法律・制度から見た検討とその課題	R4-8 堀 真輝也	機械学習を用いた氾濫域推定モデルの地域間比較に関する研究	R5-8 前田 健一	パイピング孔進展と水位履歴に着目した河川堤防のパイピング破壊のメカニズムと矢板効果

※発表時刻は目安です

7.6/17のスケジュールと発表タイトル

6/17(木) 13:00 - 15:20 研究内容およびディスカッション結果の発表3 タイムテーブル

時刻	Room1		Room2		Room3		Room4		Room5	
	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題
13:00 13:20	R1-9 後藤 勝洋	多摩川中流部における河道の長期変遷(1947年~2020年)から見た低水路河道の安定・不安定と河川植生の相互関係の分析	R2-9 田和 康太	河川域の鳥類を対象とした環境DNA解析と観察調査の比較—那珂川を事例に—	R3-9 石井 優太郎	石狩川下流域における支川群の洪水流出特性と本川洪水への影響	R4-9 一言 正之	深層学習を用いたダム流入量予測における学習データ拡張方法の提案—未経験規模の出水に対する適用性の向上—	R5-9 武若 聡	2019年台風15号による霞ヶ浦の急激な水位変動の解析
13:20 13:40	R1-10 武川 晋也	セグメント1区間における河道の二極化進行の要因分析	R2-10 村岡 敬子	ダム湖内魚類相を効率的に捉えるための環境DNA調査方法に関する検討	R3-10 上野 陽平	農事暦を考慮した背水による農地への積極的洪水導水の検討	R4-10 児玉 武史	確率限界法検定を導入した極値降雨量時系列の非正常性評価	R5-10 大野 純暉	非静水圧準三次元解析(Q3D-FEBS)と個別要素法を組み合わせた山地河川の巨石の始動の評価法に関する研究
13:40 14:00	R1-11 傳甫 潤也	樹林地内の土砂堆積を考慮した樹木群の破壊シミュレーション	R2-11 溝口 裕太	中国地方の小瀬川・佐波川・高津川を対象にした河川流域の水温変動特性を説明する重要な流域・河道特性の検出手法の提案	R3-11 成 岱蔚	流域勾配が大きな小規模田んぼを活用した流出抑制機能向上方策に関する研究	R4-11 戸村 翔	水害時における避難率の推定方法に関する基礎的研究	R5-11 原田 紹臣	土砂・洪水氾濫対策の施設規模における計画規模の設定方法に関する考察
14:00 14:20	R1-12 梶川 勇樹	海域への流出土砂量予測における支川粒度分布と浮遊砂浮上量式の影響	R2-12 福丸 大智	深層学習を用いた流域一貫の河川水温予測に関する基礎的検討	R3-12 岡田 将治	UAV搭載型マルチスペクトルカメラを用いた水表面濁度計測手法の検証	R4-12 並河 奎伍	大規模水害が地域人口に与える影響とその原因の分析	R5-12 原田 大輔	多量の土砂・流木を含む洪水流の解析法

※発表時刻は目安です

7.6/17のスケジュールと発表タイトル

6/17(木) 14:30 - 15:50 研究内容およびディスカッション結果の発表4 タイムテーブル

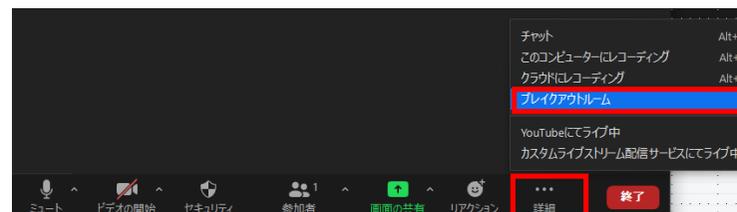
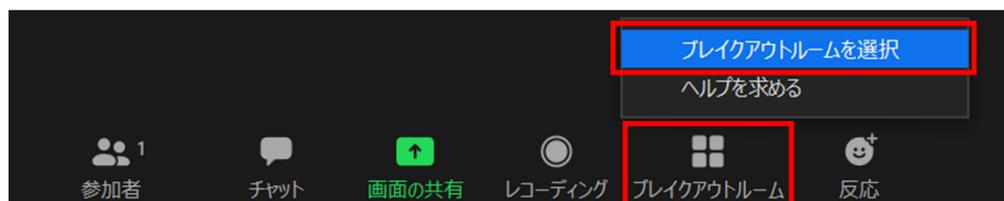
時刻	Room1		Room2		Room3		Room4		Room5	
	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題	No., 投稿者	表題
14:30 14:50	R1-13 油川 曜佑	中規模洪水時における交互砂州上に存在する樹木群の流失特性と流失が砂州に与える影響	R2-13 鬼束 幸樹	魚道と魚類の遡上・降下に関する川づくりの課題と方向性	R3-13 木下 篤彦	CCTV 画像の平均輝度差分値に基づく災害検知システムの開発	R4-13 吉川 泰弘	積雪・融雪・降雨を考慮した氷板厚計算式に関する検討	R5-13 椿 涼太	河道横断面形状の無次元指標の時空間変化に着目した低水護岸の被災リスク評価
14:50 15:10	R1-14 山田 春佳	砂州形状と植生動態との相互作用およびそれが砂州移動速度に及ぼす影響	R2-14 佐藤 祐一	中小河川における「小さな自然再生」推進に向けたプロセス構成要素の把握と適用	R3-14 諸岡 良優	VR技術を用いた河川水位予測情報の3次元表示に関する技術開発	R4-14 奥山 ほか	2020年3月網走川アイスジャムの現地観測と発生危険箇所の抽出	R5-14 常住 直人	河床被覆材敷設護床による堰直下の河床低下・洗掘抑制効果
15:10 15:30	R1-15 新妻 友太	砂河川の砂州堆積評価に着目した平面二次元河床変動解析モデルの条件設定における留意点	R2-15 福留 康智	奄美大島・役勝川で行った沖積砂礫河川の川（瀬・淵）づくりとその有効性	R3-15 海老原 友基	水防活動の効率化に資する情報集約・共有ツールの研究開発	R4-15 大野 剛	降雨分布画像を用いた水位予測手法における予測精度と流域特性の関係について	R5-15 富山 遼	中小河川における横断構造物下流の河岸侵食危険度の検討～令和3年7月洪水（沼田川水系仏通寺川）を対象として～
15:30 15:50	R1-16 井上 敏也	河道植生の中長期消長過程を簡易に考慮した平面二次元河床変動解析モデルの開発・検証	R2-16 菅野 一輝	ADCPを用いた回遊性カジカ属稚魚の遡上時利用環境の評価	R3-16 金井 純子	令和2年7月豪雨による湯浦川の内水氾濫と芦北町の高齢者施設における避難行動	R4-16 永野 雄一	メソ数値予報モデルGPVを用いた河川流量予測の精度評価	R5-16 川上 北斗	河道掘削後の経年的なモニタリング結果に基づく水理諸量の分析と樹林化抑制に関する考察

※発表時刻は目安です

8. Zoomによる論文内容の発表（ブレイクアウトルームについて）

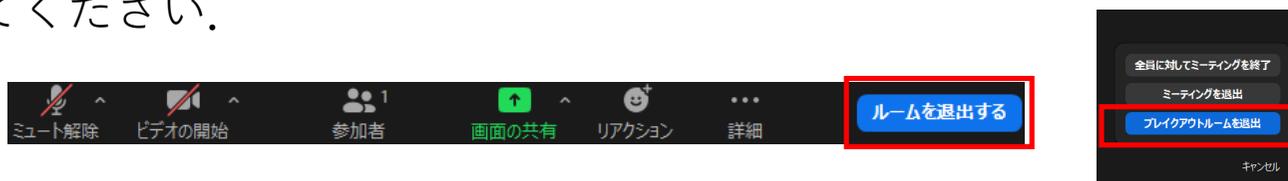
入室方法（詳細はZoom簡易マニュアルを参照ください）

1. 画面下部の「ブレイクアウトルーム」あるいはををクリック
（無い場合は詳細から選択ください。詳細にもない場合はZoomをアップデートください。）
2. 「ブレイクアウトルームを選択」をクリック



退室方法

3. 画面下部の「ルームを退出する」をクリックし、ブレイクアウトルームを退出を選択ください。
（メインセッションに戻ります）。ミーティングを退出した場合は、再度Zoomに入りなおしてください。

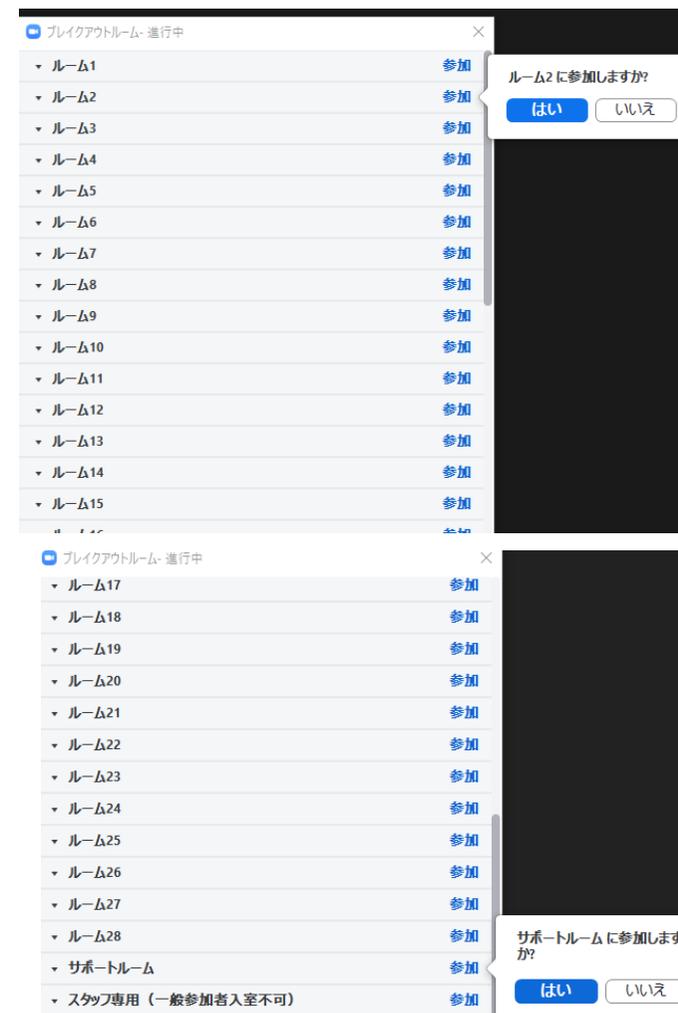


9. Zoomによる論文内容の発表（ブレイクアウトルームについて）

ブレイクアウトルーム

ルーム一覧からご希望の部屋の右端に表示される「参加」を選択してください。ルーム番号はポスターセッションのルーム番号に対応しています。

3. 常時30ルームは用意しており、29番目はサポートルームです。何かあったときは遠慮なくサポートルームに来てください（空室の場合でも入室を確認したらスタッフが対応します）一番下はスタッフ専用ルームですので一般参加者は入室しないようにお願いします。それ以外は談話室ですので、ご自由にお使いください。
4. ブレイクアウトルームでは画面共有が可能です。発表者、質問者はご自由にご活用ください。



10. 困ったときは？

Zoom内でのトラブル，ご意見など

ブレイクアウトルームのサポートルームに来てください（空室の場合でも入室を確認したらスタッフが対応します），あるいはチャットでスタッフ宛に連絡ください。

Zoom外でのトラブルあるいはサポートルームに入れない場合

水工学委員会河川部会シンポジウムスタッフ kasen-bukai@jsce.or.jpにメールしてください。

その他緊急時連絡

予期できないトラブルなど緊急時の連絡は，可能な場合はZoomメインセッションで連絡し，参加申込時にご登録のメールアドレスにご連絡しますので，メールでご確認ください。